

## 式 辞

春爛漫のこの佳き日、第 26 回宮崎国際大学入学式を挙行できますことは、大きな喜びであります。ご来賓各位におかれましては、公私ともどもご多忙なところ、多数のご臨席を賜り、心より厚くお礼申し上げます。また、ご列席のご家族の皆さまにも、心からのお祝いを申し上げます。

ただいま、入学を許可されました新入生 172 名の皆さん、入学おめでとうございます。この喜びの日を迎え、期待に満ちあふれているのではないかと思います。本年は、日本に加え、韓国、ベトナム、カメルーンからの入学生を迎え、大変嬉しく思います。

本学が立地するこの地は、儒学者である安井息軒先生の父滄州先生が、清武にこそ学問の場が必要であるとのことで、私塾である「明教堂」を開き、儒学を教えられた地です。安井息軒先生をはじめ、明治初期の日本の近代化実現に向けて、人材を送り出したこの地は、まさに「学びの丘」であります。先人たちのこの清武から学問を発信したいという願いは、190 年の歴史を経て、今もなお脈々と受け継がれています。

本学の創設者大坪久泰先生は、平成 6 年、世界のそれぞれに異なった文化を、グローバルな視点から見つめなおすため、「比較文化学」という学問を追求するための最上の環境を提供するために、宮崎国際大学を創設されました。これまで国内外に 1,400 名を越える卒業生を送り出し、国際教養学部は 25 年の歴史を刻んでいます。本学の国際的リベラル・アーツ教育は、グローバル人材育成の観点からも高い評価を受けています。本年 3 月の卒業生は、高い語学力と思考力を身に付け、航空会社、ホテル、企業へとそれぞれの夢をかなえ巣立っていきました。

そして、平成 26 年に設置した教育学部は、本年 3 月に第二期生が社会へと巣立ち、小学校教員採用試験には多数の現役合格を出し、公務員保育士や幼稚園、認定こども園合格など素晴らしい実績を挙げました。

本学の教育の根幹をなす建学の精神は、「礼節・勤労」です。「礼節」の精神では、自他の人間性を尊重し、自らを律し、他者の立場に立って物事を考えることをめざしています。さらに「勤労」の精神では、心身を労して全てのことに積極的に努力する。何事にも真摯に取り組むということをめざしています。このような人間としてのあるべき姿を追求しつつ、皆さんは学問を学びます。

4 年後、皆さんが活躍する社会は、どのような社会になっているのでしょうか。平成が終わり、令和という新たな時代の幕開けです。令和は皆さんが主役となる時代です。AI など科学技術の急速な発達、国際競争の激化など、世界情勢は日々変化しています。日本におきましても、本格的な人口減少の到来や格差社会など多くの課題を抱えています。このように厳しさが加わり、変化が著しい中で、皆さんはこの 4 年間をどのように過ごしますか。充実した 4 年間になることを願い、「役割と使命」ということについてお話しします。

皆さんは、これまでの受験勉強からの解放感と新たな大学生活への期待感が入り交じってここにいらっしゃることでしょう。今日から皆さんの学びは大きく変わります。これまでの「覚える事を中心とした教育」から「考えることを中心とした教育」へと学びが変わります。本学の教育は、リベラル・アーツです。リベラル・アーツは、幅広い知識を身につけ、基礎的な教養と論理的な思考力の修得に重点を置く教育です。自由教育と訳されることもあります。自由とは、自分が知っている事が本当に正しいのか、学問的な根拠のもとに、他の考えはないかと様々な側面から物事を見ていくことです。多方面から考えることによって、今できる最善を見つけていくことが求められます。そのためには、学問を学ぶことと同時に、自らを見つめ、自己を成長させて行かなければなりません。人間としての成長こそリベラル・アーツが目指していることです。人間としての成長を考える時、4年間で資格を取得することも大切なことです。しかし、資格を取ることが目的ではありません。それ以上に大切なことがあります。それは、自分は社会でどのような役割を持てるのだろうか、自分は何のために生き、人のため、社会のために何が出来るだろうかという、自らの使命について考えることです。学問を通して学び、実習を通して学び、ボランティアを通して学び、学友との語らいを通して学び、様々な大学生活を通して自らの役割と使命について考えて下さい。皆さん一人ひとり違います。皆さん一人ひとり大切な方々です。皆さんにしかできない役割、使命があります。

私の研究領域は、障がいのある子どもたちや虐待を受けた子どもたちの音楽療法と心理的支援です。言葉が話すことができない、身体を動かすことのできない障がいのある子どもたちをどのように理解し、どのように支援するのか、これが正しいという答えのない臨床の旅を私は続けてきました。担当した子どもの短かった一生を前にし、私には何もできることはないと思ったこともあります。そのような中で子どもたちが教えてくれたことがあります。それは、「今日という日を精一杯生きる」ということです。聖書の中に「明日のことまで心配しなくて良いのです。明日のことは明日が心配します。苦労はその日に十分あります。」という言葉があります。今日という日の積み重ねが、4年間なのです。今日できる最善を積み重ね、自分は何のために生きるのか、いかに生きるのか、自分の役割と使命は何かということを明確になさる事を心から願っています。

宮崎国際大学での「考えることを中心とする教育」。今日がそのスタートの日です。

本学は、皆さんの可能性を発見できる教育を全力で提供します。

「見たことのない景色を見て、見たことのない自分に出会う」。それが本学での4年間の学びです。

本学の教職員は全力で皆さんの新たな学びを支援します。

結びに、「ビー ア スター」という言葉を贈ります。これは、本学学生の間で代々引き継がれた言葉です。皆さん一人ひとりが、主役として輝いた学生生活を送ることへの願いがこめられています。

皆さんの大学生活が、実り多きものとなりますことを心から願ひまして、学長式辞といたします。

平成 31 年 4 月 3 日

宮崎国際大学学長 山下恵子